

マンスリー・ヘルシートピックスのコーナーをリニューアルしました！ここでは、掲載月にこだわらずに、私達が“お知らせしたい事・話題のトピック”などを紹介しています。日比谷診療所・医療スタッフ（薬剤師・看護師・歯科衛生士）が、交替での投稿となります。6月は、看護師による投稿です。

身近な病気の虫さされについて

虫さされは、大変身近な皮膚病です。虫刺されというと、一般的に蚊やノミに刺されたことによって生じる、痒みの強い赤いブツブツができる、という印象があると思います。しかし、実際には、蚊やノミ以外にも様々な虫が人を刺したり、咬みついたり、皮膚から血を吸って被害をあたえます。そこで、今回は、これからの暑い季節に役立つ、虫の特徴、および刺された時の症状・対応について、ご案内します。

虫の特徴、および刺された時の症状・対応について

1. 蚊

● 特徴

人を好んで刺す蚊は、約8種類いるといわれています。メスだけが吸血します。



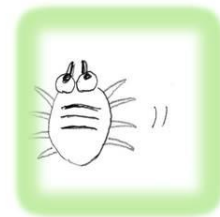
● 症状と対応

個人差もありますが、刺された直後から激しい痒みを感じ、また水ぶくれを生じる場合もあります。掻くと悪化するので、なるべく掻かないようにし、早目に抗ヒスタミン薬とステロイド成分を配合している外用薬を塗りましょう。また、蚊に刺されたことによりウイルス感染を起こしてしまう場合があります（後述）。

2. イエダニ

● 特徴

室内で刺されるのは、ネズミに寄生するイエダニによるもので、主に夜間に血を吸います。



● 症状と対応

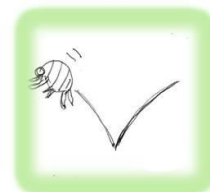
症状は痒みが強く、赤くてしこりのあるブツブツができ、数日～10日間続きます。

抗ヒスタミン薬とステロイド成分を配合している外用薬を塗ります。バルサン®などの駆除剤を使用することもおススメです。

3. ノミ

- 特徴

ほとんどが猫ノミによる被害です。メス、オスともに吸血します。



- 症状と対応

猫の飼育経験が無い人、過去に刺された経験のない人程、痒みが強く、大豆大からサクランボ大の水ぶくれができることがあります。抗ヒスタミン薬やステロイド成分を配合している外用薬を塗ります。

4. ケムシ

- 特徴

ケムシには長さ 0.1 ミリの細かい有毒の毛があり、触れると皮膚炎をおこします。



- 症状と対応

毛の毒に触れると、強い蕁麻疹のような症状や赤いブツブツができます。毛虫に触れた直後、不用意に搔いてしまうと、毒毛を更に擦り込んでしまい症状が悪化します。粘着テープなどで付着した毛を取るか、水洗いしてから抗ヒスタミン薬とステロイド成分を配合している外用薬を塗ります。

5. シラミ

- 特徴

アタマジラミは、子供の頭髮に好んで寄生し、幼稚園や学校で集団発生します。ケジラミは、大人の陰毛を好む性感染症の1つでもあります。



- 症状と対応

アタマジラミは、頭部に痒みをおこしますが、時に痒みがなく、寄生に気が付かな

いこともあります。メスは、光沢のある灰色で1ミリくらいの卵を頭髮に産み付けます。ケジラミは、陰部に激しい痒みを生じます。是非、皮膚科を受診しましょう。

6. ブヨ

- 特徴

ブヨは、山間渓流域に多く生息しています。蚊と違い皮膚をかじり、流れ出る血を吸います。蚊と同様、産卵のための栄養源として、メスだけが吸血します。



- 症状と対応

わずかな痛みと少量の出血があり、数時間後に強い痒み・赤み・腫れが出現します。症状は、個人差があります。掻きむしりによる二次感染にご注意ください。止血後に、抗ヒスタミン薬とステロイド成分を配合している外用薬を塗ります。

7. マダニ

- 特徴

本来は、野生動物に寄生していますが、野山で人の衣服に移り、皮膚に固着して吸血します。無理に剥がすと皮膚に刺さった口部が残ってしまい、難治性のしこりとなることがあります。



- 症状と対応

吸着・吸血時は、一般に自覚症状は無く、寄生している虫自体が膨れてきて、ようやく気が付きます。無理にむしり取らずに皮膚科で処置を受けてください。

8. ハチ

- 特徴

人家周辺では、アシナガバチ、野山では、スズメバチの被害が多く起こります。アシナガバチやスズメバチは、何回でも刺すことができるので、脅威となります。



- 症状と対応

初めて刺された時は、痛みや発赤が出現しますが、1日以内に軽快します。2回目

以降は、アレルギー反応によって強い腫れを生じたり、時に刺された直後に、アナフィラキシーショックを起こしたりして、死亡する場合があります。刺されたら救急車を呼びましょう。

9. ムカデ

● 特徴

ムカデは、落葉や石の下などに生息し、昆虫類などを食べて生活しています。夜間に、ゴキブリやクモなどを食べる為に、家に入って来ることがあります。吸血性はなく、側にきても不用意に払ったりしなければ、咬まれることはありません。



● 症状と対応

咬まれた瞬間に激痛が走り、しびれてきます。場合によってはショック症状を起こすことがあるため、直ぐに皮膚科を受診してください。

虫刺され予防について

虫刺され予防として、以下の4項目を推奨します。

1. 蚊は汗の臭いに釣られてやって来る

- こまめに汗を拭きましょう

2. 服装に注意

- 肌の露出を少なくしましょう
- ハチや蚊は黒い色に寄ってくるので、白っぽい服を選びましょう

3. 虫除け剤（忌避剤）の使用

肌に直接吹き付けるスプレーやクリームタイプ、洋服に貼るシールタイプ、腕につけるリングタイプなど、種類も様々にあります。上手に利用して予防しましょう。

4. 虫を避ける

- 室内の蚊・ノミ・イエダニなどの駆除は、バルサン®などの殺虫剤が有効です

- イエダニは、宿主であるネズミの駆除が必要です
- ケムシやドクガ類に、触れないようにし、ケムシが居そうな樹木などの下に行かないように注意しましょう

虫さされによる感染症

ここでは、近年、国内でも発生し、メディアなどで騒がれている、**蚊による感染症**について説明します。以下、主な3項目について記載します。

1. 日本脳炎

日本脳炎は、主にコガタアカイエカが媒介する日本脳炎ウイルスにより感染します。日本においては、家畜伝染病予防法における監視伝染病であるとともに、感染症法における第四類感染症に指定されています。特徴として、日本での主な感染源は、豚によるもので、人から人に感染することはありません。ウイルスを持つ豚を吸血した蚊に刺されて感染します。潜伏期間は、**6～16**日間とされ、症状は、高熱・痙攣・意識障害に陥るウイルス感染です。ほとんどが不顕性感染で、感染者の発症率は、**0.1%～1%**と推定されています。治療法は、対症療法のみで抗生物質は効果がありません。半数以上が脳に障害を受け、麻痺などの重篤な後遺症が残ります。ただし、日本脳炎は、予防ワクチンがあります。高い予防率なので、蚊の多い国へ行かれる際は、ワクチン接種をおすすめします。

2. デング熱

熱帯病の1つであるデング熱は、人から人への感染はなく、主にネッタイシマカ、ヒトスジシマカなどの蚊によって感染します。感染症法における第四類感染症に指定されています。潜伏期間は、**3日～14**日間とされ、主に**4日～7**日の間に発症することが多いようです。症状は、一過性の熱性疾患で、発熱・頭痛・関節痛などがあり、はしかのような皮膚発疹が、全身に出ます。治療法は、対象療法しかありません。

本来、日本での感染は珍しいのですが、近年の発症は、地球温暖化、加えて国際化による海外渡航の増加などが、感染拡大に関与していると考えられています。残念なことに、デング熱のワクチンは無く、蚊に刺されないことが、一番の予防になります。

3. ジカ熱

ジカ熱は、フラビウイルス科のジカウイルスを持っている蚊に刺されて感染します。アジア・アメリカ・中南米・アフリカ・太平洋などで感染が確認されており、第四類感染症に指定されました。潜伏期間は不明ですが、数日～7日間くらいとみなされています。症状は、デング熱と似ていますが、軽度の発熱・結膜充血・関節痛・頭痛・斑点状丘疹などになります。さらに深刻なことに、アメリカの疾病予防管理センター（CDC）の調べによると、妊娠中にジカ熱に罹患すると、母子垂直感染により小頭症（脳の成長抑制・障害など）の赤ちゃんが生まれることが判明しました。輸血や血液製剤、性的接触により、男性から女性に感染させてしまう可能性も報告されている為、注意が必要です。治療は、対症療法しかありません。子供に対しては、アスピリン系の投薬は回避されています。残念ながら、ジカ熱のワクチンもないので、蚊に刺されないようにする事が重要です。

おわりに

虫刺されは、気温の高い夏に注意！と思いがちですが、近年、地球温暖化の影響で、夏以外も気温が高くなる日があります。つまりは、1年中、虫刺されのリスクがあるのです。“夏に蚊に刺される”は、昔からのことなので軽視しがちですが、その蚊があらゆる不衛生な物を媒介していると思うと、恐怖すら感じます。蚊による感染症は、日本脳炎以外、ワクチンが無いので、なお更です。予防法として、刺されない、虫の居そうな場所に近付かないことがポイントになりますが、自然に親しむ観点から、否定もできません。まずは、服装の工夫や忌避剤の使用から始めてみましょう。

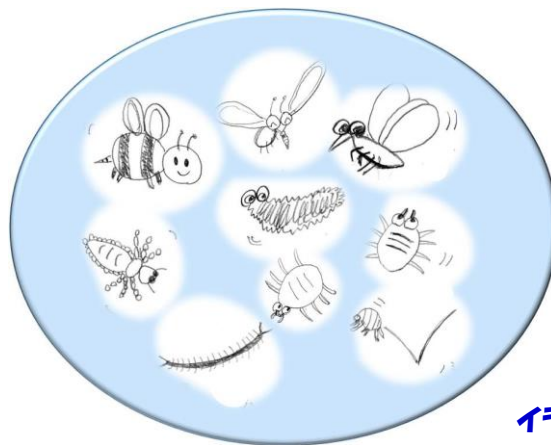


イラスト by 箭野 幸子